



## 近畿ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 渡邊 大

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター臨床研究センター  
エイズ先端医療研究部 HIV感染制御研究室長

### 研究要旨

【目的】本研究では、近畿ブロックにおける HIV 診療の課題を明らかにし、HIV 診療の向上を目的とする。【方法】患者動向の調査に加え、近畿ブロック都道府県・エイズ拠点病院等連絡会議、研修会の企画と実施（出前研修会を含む）、資料の作製などを行った。【結果】新規 HIV 感染者数の減少、電話診療の開始、新型コロナウイルス感染症流行時の定期受診患者数の減少、研修会の実施数の減少を認めた。【結論】近畿ブロックでは去年よりも研修会の開催数は減少したものの、リアルな研修会を実施し、HIV 診療の向上に貢献したと思われた。新型コロナウイルス感染症の流行下における HIV 診療および研修会のあり方については今後の検討課題である。

### A. 研究目的

エイズ診療の近畿ブロックは、大阪・兵庫・京都・滋賀・奈良・和歌山の2府4県から成り立っている。現在ではそれぞれ府県で中核拠点病院が定められており、ブロック拠点病院である大阪医療センターとともに、地域における医療体制の整備を行っている。本研究では、近畿ブロックにおける HIV 診療の課題を明らかにし、HIV 診療の向上を目的とした。

昨年度にコミュニケーション研修のニーズに関するアンケート調査を行なった。送付数220に対して28名の返答（無効を除く）があり、22名（79%）がコミュニケーションに関する研修会の必要性があると回答していた。セフルケアが困難な症例への対応や、性的な事柄についての話しづらさなどに困難を感じており、希望する研修内容として事例検討が最も多く挙げられていた。これらの結果から、今年度

はコミュニケーションとチーム医療研修会を再開した。

HIV 診療にはさまざまな解決すべき課題が残されている。本研究ではそのうち、HIV 検査の受検や医療機関の受診を行わずに AIDS 発症に至る心理的過程を明らかにすること、高齢者福祉サービスの充実のために HIV 感染者の生活状況・サービス利用の実態や問題点を明らかにすることについても研究を行うことにした。

### B. 研究方法

患者動向の調査に加え、中核拠点病院打ち合わせ会議、近畿ブロック都道府県・エイズ拠点病院等連絡会議、研修会の企画と実施（出前研修会含む）、資料の作製、ホームページによる情報発信、拠点病院への HIV 診療に関するアンケート調査を行った。

研修・教育に用いた資料は次の通りであった(表1)。

表1 研修・教育に用いた資料

名称	作成者	研究班	主な使用方法
あなたに知ってほしいこと	大阪医療センター	「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」班	研修会・講習会で配布
HIV/AIDSの正しい知識～知ることから始めよう～	社会福祉法人武蔵野会	「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」班	研修会・講習会で配布
抗HIV治療ガイドライン	大阪医療センター	「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」班	研修会・講習会で配布
Healthy & Sexy	大阪医療センター	「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」班	研修会・講習会で配布
あなたとあなたのイイひとへ	大阪医療センター	「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」班	研修会・講習会で配布

- あなたに知ってほしいこと  
(2020年8月発行<第15版>)  
[https://www.haart-support.jp/pdf/anatani\\_shittehoshii\\_v15.pdf](https://www.haart-support.jp/pdf/anatani_shittehoshii_v15.pdf)
- HIV/AIDSの正しい知識～知ることから始めよう～  
(2019年2月発行<第2版>)  
[https://www.haart-support.jp/pdf/h31\\_knowledge\\_hiv\\_aids.pdf](https://www.haart-support.jp/pdf/h31_knowledge_hiv_aids.pdf)
- 抗HIV治療ガイドライン (2020年3月発行)  
<https://www.haart-support.jp/pdf/guideline2020.pdf>
- Healthy & Sexy (2014年3月発行)  
<https://osaka.hosp.go.jp/wp-content/themes/osaka-iryoku/img/department/khac/medical/resource/healthy-sexy2014.pdf>
- あなたとあなたのイイひとへ  
(2014年3月発行)  
<https://osaka.hosp.go.jp/wp-content/themes/osaka-iryoku/img/department/khac/medical/resource/anatato2014.pdf>

上記のうち、「あなたに知ってほしいこと」と「あなたとあなたのイイひとへ」、「Healthy & Sexy」の3点については大阪医療センターホームページからダウンロード可能である。

(倫理面への配慮)

研修・教育に用いた症例呈示では、患者個人が特定されない等の配慮を行った。AIDS発症に至る心理的背景に関する研究および高齢者福祉サービスの充実のための研究は、倫理審査中もしくは倫理審査予定である。

C. 研究結果

まずは、患者動向を示す。当院の2020年の初診患者数は128例であった。2016年154例、2017年157例、2018年166例、2019年163例と、ここ数年間の初診患者数は横ばいであったが、2020年の初診患者数は大きく減少した。初診患者のうち、新規未治療症例は82例であり(図1)、CD4陽性Tリンパ数が200/μL未満の症例の割合は62%、AIDS患者の割合は30%と2019年と比較し、病期が進行した患者の割合が高かった。紹介元施設をみると、献血センターからの紹介が増えた一方で、その他に分類さ

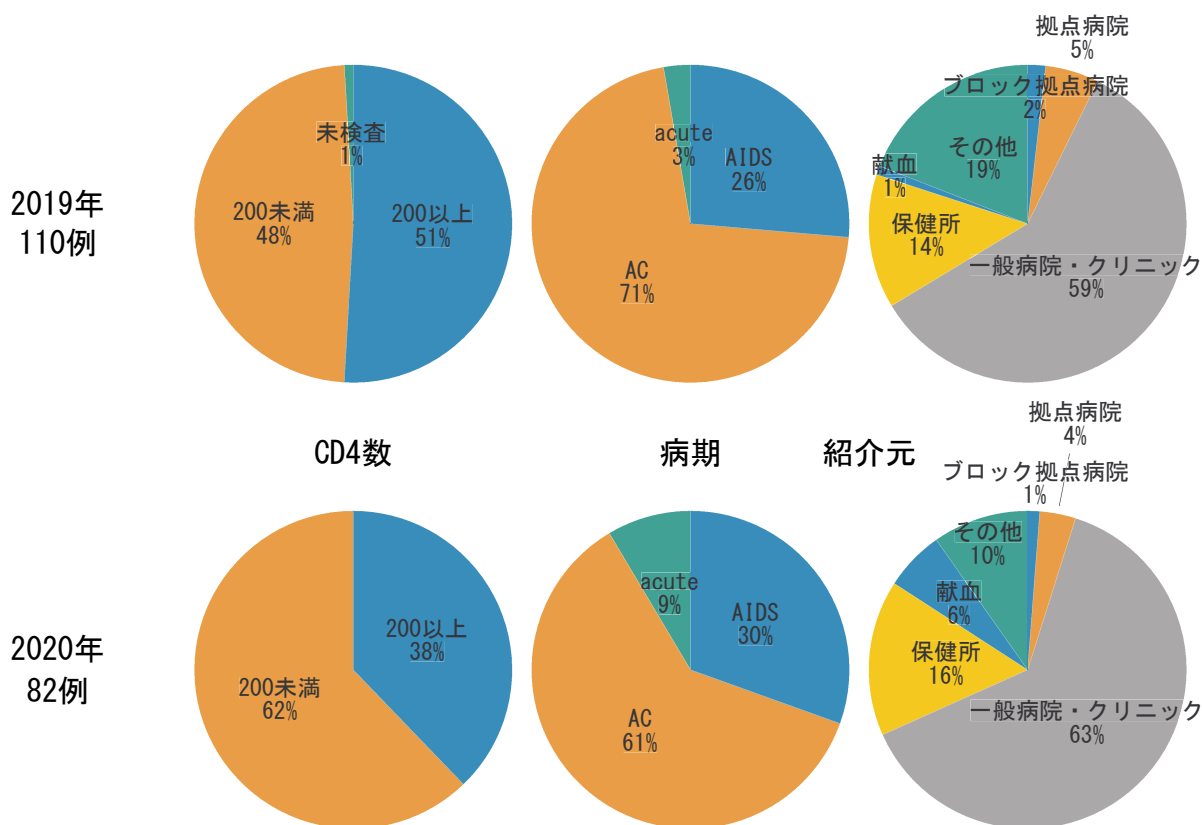


図1 2019年と2020年の新規未治療患者の診断時の患者背景 (大阪医療センター)

れている特設検査施設からの紹介数の減少を認めた。以上から、HIV未診断者の受検行動の変化が推測された。当院の月別定期受診者数（図2）をみると、5月・8月・11月で定期受診者数が大きく減少しており、血中HIV-RNA量やCD4陽性Tリンパ球数の測定回数も同様に減少していた。定期受診者数の減少と比較すると、電話診療者数はそれほど多くはなく、新患者数も特定の月で大きく変化するようなことは観察されなかった。

次に、2020年度の研修会の実施実績を表2に示す。実施した研修会はリモート開催を含む4件であり、昨年度の12件と比較すると実施回数は大きな減少を認めた。開催を行なったのは当院が主催したもので、中核拠点病院が計画した研修会・講習会はいずれも今年度は開催されなかった。また、2021年

2月に予定されたHIV/AIDS看護研修（応用コース）は16名の参加の応募があったが、緊急事態宣言に伴い開催は中止になった。HIV/AIDS看護研修（初心者コース）は2回分をまとめて参加人数・応募人数を昨年度と比較すると、看護師研修（初心者コース）・看護師研修（応用コース）・HIV感染症研修会はいずれも約半数の参加（応募）人数になっており、ソーシャルワーク研修会も約6割の参加人数であった。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、研修会の需要も減少していた。今年度は中止になっていたコミュニケーションとチーム医療研修会を再開した。「HIV感染症の最近の話題：U=Uをめぐる」、 「話しにくい話題を取り上げて話すには?」、 「多職種による事例検討会：セルフケアに困難を抱える事例」の3課題について講習・実習を

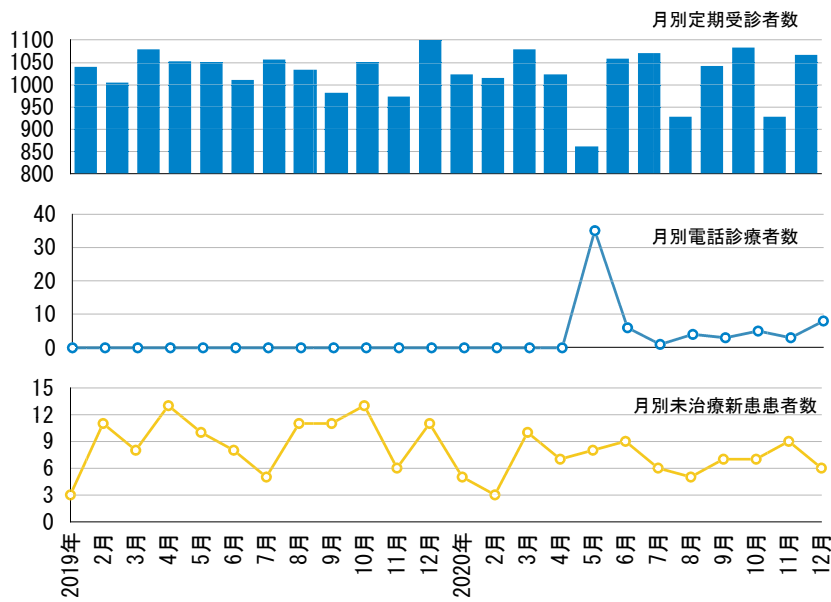


図2 月別定期受診者数・電話診療者数・未治療新患者数（大阪医療センター）

表2 研修会の実施実績

名称	目的	主な対象	昨年度の参加人数	参加人数
HIV/AIDS看護研修(第1回 初心者コース)	知識普及	看護師	35	36
HIV/AIDS看護研修(第2回 初心者コース)	知識普及	看護師	32	開催なし
HIV感染症研修会	知識普及	多職種	49	24
HIV医療におけるコミュニケーションとチーム医療研修会	実習	多職種	開催なし	16
HIV感染症医師一ヶ月実地研修	実習	医師	1	応募なし
近畿ブロック エイズ診療拠点病院ソーシャルワーク研修会	教育・講習	MSW	33	20
近畿ブロック HIV医療におけるカウンセリング研修会	教育・講習	カウンセラー	27	リモート
HIV/AIDS看護研修(応用コース)	教育・講習	看護師	33	開催なし 応募16名
HIV/エイズに関する研修会(和歌山県立医大)	知識普及	その他医療関係者	27	開催なし
歯科における院内感染対策研修会(兵庫医科大学病院)	知識普及	歯科医師、歯科衛生士	33	開催なし
HIV感染症に関する講習会(滋賀医科大学医学部附属病院)	知識普及	その他医療関係者	N.A	開催なし
歯科における院内感染対策研修会(兵庫医科大学病院)	知識普及	歯科医師、歯科衛生士	N.A	開催なし
歯科における院内感染対策研修会(兵庫医科大学病院)	知識普及	歯科医師、歯科衛生士	N.A	開催なし

行なった。HIV地域医療支援室による出前研修会の開催数についても、昨年度17件から今年度2件に大きく減少した。クリニック（2020年9月）および高齢者施設（2020年10月）のスタッフに対して開催したが、新型コロナウイルス感染症の流行がある程度落ち着いた時期に行なったものであった。

今年度は中核拠点病院打ち合わせ会議を実施することができず、近畿ブロック都道府県・エイズ拠点病院等連絡会議も時間短縮して開催した。

資料では『あなたに知ってほしいこと』の改訂を行なった。主な改訂内容は以下の3点である。U=Uの記載を追加し、生ものを食べることの注意事項、血液汚染があった時の洗濯の注意事項の改訂を行なった。

#### D. 考察

新型コロナウイルス感染症の流行により、HIV診療は大きな影響をうけた。患者動向が示すように、AIDS患者数は大きな変化はなかったものの、HIV感染者の新規診断症例数が大きく減少した。特にCD4陽性Tリンパ球数が200/ $\mu$ L以上で診断された症例の減少が目立った。紹介元施設の分類から示されるように、緊急事態宣言時に特設検査施設を含めた自主検査が中止になっていたこと、解除後も密を避けるため検査件数を増やすことができない施設があると思われたこと、新型コロナウイルスの検査に人的・時間的な労力をとられたことがその原因の一部として考えられた。また、検査件数が減少したことにHIV未診断者の心理面に対するコロナ禍の影響が関与していたことは否定できない。2009年の新型インフルエンザの流行時にもHIV検査件数は大きく減少し、新しい感染症の流行により患者動向を大きく変えたことになった。新規診断患者の減少に加え、2021年5月・8月・11月の定期受診患者数の減少も無視できない結果であった。実際に服薬中断となった症例も存在し、診断の遅れとともに治療の中断によるAIDS患者の増加が危惧された。

新型コロナウイルス感染症の流行により電話診療が開始された。当院に通院中のHIV感染者では自立支援医療の登録薬局が病院の近隣のいわゆる門前薬局になっていることが多く、患者の自宅近隣の薬局で対応ができない問題点があった。0410対応により門前薬局から患者の自宅へ抗HIV薬が郵送されることで電話診療が可能になった。今後はオンライン診療を含め、コロナ禍におけるHIV診療のnew normal

を確立する必要があると思われた。

コロナ禍でのnew normalの確立は診療だけではなく研修会においても同様である。他のブロックでは研修会はほぼ中止になった。当院では4件のリアルな研修会、2件の出前研修、1件のリモートの研修会を行なった。リモートでも十分な研修効果が得られるかどうか今後の課題と思われた。

AIDS発症に至る心理的背景に関する研究および高齢者福祉サービスの充実のための研究は、現在プロトコルを作成中であり、倫理審査後に研究を開始する予定である。

#### E. 結論

近畿ブロックでは去年よりも開催数は減少したもののリアルな研修会の実施し、HIV診療の向上に貢献したと思われた。新型コロナウイルス感染症の流行下におけるHIV診療および研修会のあり方については今後の検討課題である。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

海外

なし

国内

- 1) 渡邊 大. 50分でCatch upできるHIV治療の現在と臨床で直面する今日の課題. 第94回日本感染症学会総会・学術講演会、東京、2020年8月21日
- 2) 渡邊 大. With/After COVID-19時代のARTのNew Normal. 共催セミナー8. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会. WEB、2020年11月28日
- 3) 渡邊 大. HIV診療における薬物相互作用. シンポジウム4「Drug-Drug Interactions」. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会、WEB、2020年11月27-29日
- 4) 渡邊 大. CAB/RPVなど注射剤の将来的なポジショニングについて. シンポジウム22「新規抗HIV薬をどのように使い分けるか」. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会、WEB、2020年11月27-29日

- 5) 榑田宏幸、中内崇夫、矢倉裕輝、榑田智仁、廣田和之、上地隆史、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨. 日本人のテノホビルアラフェナミド服用における推定糸球体ろ過量低下症例についての検討. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会、WEB、2020年11月28日
- 6) 矢倉裕輝、中内崇夫、榑田宏幸、榑田智仁、廣田和之、上地隆史、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨. 日本人HIV-1感染者におけるビクテグラビルの血漿中濃度に関する検討 第1報. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会、WEB、2020年11月28日
- 7) 中内崇夫、矢倉裕輝、榑田宏幸、榑田智仁、廣田和之、上地隆史、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨. 初回治療としてインテグラーゼ阻害剤を使用した患者の血清尿酸値の上昇に関する要因についての検討. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会、WEB、2020年11月28日
- 8) 渡邊大、矢倉裕輝、榑田智仁、廣田和之、上地隆史、中内崇夫、榑田宏幸、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨. 当院におけるビクテグラビル・テノホビルアラフェナミド・エムトリシタビン配合錠の処方例に関する検討. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会、WEB、2020年11月28日
- 9) 菊地 正、蜂谷敦子、西澤雅子、椎野禎一郎、俣野哲朗、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、瀧永博之、岡 慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、今橋真弓、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、小島洋子、森 治代、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦互、吉村和久. 国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会、WEB、2020年11月28日
- 10) 川畑拓也、伊禮之直、真栄田哲、崎原永辰、仲宗根正、仁平 稔、久高潤、渡邊大、大森亮介、駒野 淳、阪野文哉、森 治代、本村和嗣. 健診機会を利用したHIV・梅毒検査の提供. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会、WEB、2020年11月28日
- 11) 中濱智子、東 政美、渡邊大、上平朝子、池田和子、杉野祐子、谷口紅、生島嗣、若林チヒロ. HIV陽性者の情報のUp dateにおける課題～「HIV陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果から（第2報）～. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会、WEB、2020年11月28日
- 12) 東 政美、中濱智子、渡邊大、上平朝子、池田和子、杉野祐子、伊藤 紅、斎藤可夏子、若林チヒロ、生島 嗣. HIV陽性者の高齢化と介護～「HIV陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果から（第3報）～. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会、WEB、2020年11月28日
- 13) 松山亮太、渡邊大、土橋西紀、鍵浦文子、加納和彦、高橋琢理、松井佑亮、白阪琢磨、砂川富正、梯 正之. CD4細胞数データとインシデンス法を利用した日本におけるHIV感染者数の推定. 第31回日本疫学会学術総会、WEB、2021年1月28日

#### H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし